

諫早市教育委員会議事録
令和 7 年第 6 回（6 月定例）

令和 7 年第 6 回（6 月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和 7 年 6 月 1 8 日（水）
1 7 時 0 0 分～1 7 時 4 5 分
- 2 場 所 諫早市役所 7 階 会議室 7－1
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 石橋 芳秋
教育総務課長 池 政信
学校改革推進室長 青木 信高
学校教育課長 山口 隆
生涯学習課長 松原めぐみ
- 5 議 題
報告第 1 3 号 臨時代理の報告について（諫早市少年補導員の委
嘱について）

議事録署名人の指名

原田委員と小野委員を議事録署名人に指名

議事の非公開

報告第 1 3 号は人事案件であるため非公開

議事録の承認

令和 7 年第 5 回（5 月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

まず一番目に学校教育の課題解決の鍵は、「絆」と『「挑戦と創造」～明るく 楽しく 面白く～』にありとしている。

課題としては、今の子供たちを見ているとゲーム三昧であるとか、SNS ののめり込み、不登校の低年齢化、無気力・無感動、1 人遊び、孤独・内向き。こういう児童生徒ばかりではなく、ほとんどが健全な子供たちだが、中にこういう子供たちがいると思っている。

1 人遊びとあるが、今、私が気になっているのは、子供たち同士で遊ぶというよりも、親子で遊ぶことが多く、公園を見ていると、子供同士の遊びよりも親子で遊んでいる傾向があるような感じがする。

どうしたらいいのかですが、仲間、集団、絆、思いやりと、こういう子供たちに変化をさせる教育が必要ではないか、学校は教職員

の資質向上を図って授業を充実させ、明るく思いやりのある学級を作っていくということではないか。それからコミュニティスクールを今、推進しているので、これも追い風になるのかなと。保護者は家庭教育の重要性を認識して、子育てに責任を持つということも大事なことではないか。PTA活動も手助けになる。PTAのスローガンの中に「頼ってください。学校、PTA、地域」というスローガンがあるが、学校にも頼ってほしいと思っているし、PTAも自分たちに頼ってもらいたいという気持ちを持っている。子育てというのは、非常に核家族化の進行の中で、今までだったらおじいちゃんやおばあちゃんの知恵もあったかもしれないが、そういう初めて子育てをする不安もあるだろうし、見通しが立たないというところもあるのかもしれないので、そういうことでお互いに絆を濃くして、頼るということも大事なのかなと思った。

地域は、「地域の子供は地域で育てる」との思いで、登下校の見守りや通学合宿、子供会といったことで、子供や保護者に積極的に関わっていくことで、通学合宿も非常に活発にしてもらっており、日頃は登下校の見守りなど本当に頭が下がる思いです。教育委員会がそういう絆を強めるようなコーディネーター役でありたいと思う。

右の図が、まさにそういう図で子供を真ん中にして、学校と地域と家庭・保護者が一緒になって盛り上げていく、そういうことかなと。そのためには「明るく 楽しく 面白く」といったようなことも根底になければいけないと思う。

今、議会前で答弁書を皆さんに考えてもらいながら、私も常に検討していることは、できるだけ悲観的なことを言わず、「もう駄目です。これしません。」「もう人口はどんどん減少しています。」「もう統廃合します。」みたいなそういうのではなく、「もっと盛り立てる、賑やかになる、もっと楽しくなるような、そういう学校を作ってまいります」という答弁にしていきたいと思って、今いろいろと検討しているところです。

2番目、「図書館のまち諫早」として、令和7年度子供の読書活動優秀実践図書館として文科大臣表彰を受賞した。これは画期的なことで、図書館活動が子供の読書活動推進のために顕著な取り組みをされたということで、「図書館のまち諫早」の面目躍如ではないかと思う。皆様方もご存知のように、諫早市の図書館は3つの図書館1分館3分室で、それがネットワークで結び付いて、規模および書籍だけでなく、サービス内容の点で県下でも最も先を行くといったようなことです。

また、移動図書館車やボランティア団体による図書館奉仕、おは

なし会なども日々活発に展開されて、そういうことが実績として、蔵書数は昨年度、九州の人口10万人以上で第1位だった。そして貸出数は、春日市に負けて3番ということだった。しかしそれでも、1位と3位というのは、立派なものだなと思っている。皆さんの盛り上がり方や、私も県立図書館長もして、全ての図書館を回った経験もあるが、やっぱり諫早の図書館が一番優れている。いろんな面で優れている。それから、3つの図書館1分館3分室がネットワークで、どこで借りてもいいし、どこに返してもいいと。諫早図書館、たらみ図書館、森山図書館と大きい図書館が3つある。ほかの市町に行くと、普通、1つしかない。西諫早図書館も充実しているから、そういった面で文学者を生んできているのではないかと思っている。あと、また若い人が出てきてほしいなという気持ちで書いた。

学校図書館の教育担当教員というのは、司書教諭がいるが、それと学校図書館運営支援員、これは会計年度任用職員がいるけれども、非常に図書館運営という面で熱心にやってもらっていることが非常にありがたいことだなと。若いときに本を読むことは非常にいいことで、子供の成長に不可欠なものだと思っている、瑞々しい想像力とか感受性というのは読書をすることによって磨かれて、表現力が高まり、想像力とか、読解力も養われていく。本を読んでいると、読んだ人にとってはいろんな知らない世界を知るし、また、読んでいる人と話をすると勉強になることが非常に多い。だから図書館、図書室、本は、非常に大事なところかなと。

その写真は、授賞式の写真で、受賞されたものはすべて発表されなくて、諫早図書館はその中の何件かの一つであったということです。

5月の行事の中では、義務教育学校の基本設計を発表した。それからPTA連合会が総会、表彰式、懇親会を実施し、皆様にも来てもらった。参加をいただいてありがとうございました。

6月の中総体、ちょうど心配された雨も2日目小降りではほとんど支障なく行うことができた。私も1日目、いろんな競技を見て回り、そこで思ったことは、控え部員の応援です。この左上に仲間を応援としているが、一生懸命チームのために応援している姿が、いい風景だと思った。係や役員のキビキビした運営や保護者同士の交流など大変意味ある大会だった思い、県大会でも活躍してほしいと思っている。今、諫早市は部活動地域移行をしているが、今年度、休日、祝祭日の移行を考えており、12年度末までに運動部の方は移行することとして準備を進めている。しかし学校対抗というのもいいなと思って、未練じゃないが残しているところである。ただ、文化部

については、なかなか移行が難しいということで、これはこれで残していこうかなと思ったが、そうすると、中学校の先生の中に文化部だけ顧問があり、スポーツの方は開放されるということになったら、それはそれでまた問題があるのかなと思い、難しいことになるのではないかと思っているわけです。

わんぱく相撲は初めて行ったが、青年会議所が主催して、本市と雲仙市在住の小学生40人が県大会、全国大会をかけて熱戦を繰り広げた。面白かったです。諫早農業高校の部員たちも指導者として活躍し、非常に賑わった大会でした。

それから諫早ロータリークラブの卓話ということで、私が13日の金曜日に「『教育のまち諫早』の実現に向けての私の挑戦」ということで話をした。その私の思いは、その下に書いているところですが、日本の故事に「1年先を見るものは花を植え、10年先を見るものは木を植え、100年先を見るものだけが人を作る」ということがあるけれども、管轄の幼稚園、小学校、中学校、図書館、公民館のために全力を尽くすということはもちろんですが、県立中学や私立中学、それから県立高校、県立特別支援学校、3私立の高校、諫早唯一の大学、鎮西学院大学、私も高校、大学、また長崎大学、鎮西学院大学で教師の卵というのを、小中学校の先生等も教えてきたので、そういう接着点になりたいなと。そういう絆を、そういう役目をしたいなということです。実は7月に諫早市内の附属中、日大中を含めて中学校の校長と高校の校長が集って、自分の学校はこういう取り組みをしていると、高校側からPRするのを聞いて、そして夜は懇親会といったことをするが、そこに私も今回はちょっと入り、「そういう接着点になります」と、「皆さん諫早の全ての学校を盛り上げていきましょう」と、そういうことを言わせていただきたい。私も危機感を持っているが、諫早の高校で、今回入学の定員を満たしたのは、私立の3校と諫早高校だけです。他のところは全部定員割れです。諫早農業高校、商業高校、諫早東高校などいろいろなところもありますので、特別支援学校も含めて盛り上げていこうと思っているところです。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

7月の5日、6日の土曜、日曜に毎年やっている図書館フェスティバルがある。私もスタッフです。すごい人出になるが、ぜひ見てほしいのが、ボランティア団体が入っており、全部で32団体ある。本の修理をするボランティア団体もあり、それを実際に見たら「こ

うやって修復していくんだ」とすごく面白いです。毎年あり、本当に多くのそういう方々で成り立っているのも、そちらの方もぜひ、もし時間があれば、見に来てほしい。

それと鎮西学院大学がコミットして、ビブリオバトルという、いわゆる本を読んで、それを自分でどういう本だっているのを説明していくというのもやっているのも、ぜひお子様とか、見てもらえれば結構面白いと思う。

[教育長]

私がつくづく感心するのは、そのボランティア団体の人たちが、本当に熱心です。これがこういう賞に結びついたと思う。皆さん熱心な方々ばかりで圧倒される。諫早はそういう面では恵まれている。ありがたいことです。

[委員]

図書館のまち諫早ということで、保育園にも飯盛のふれあい会館の中にある図書室から定期的に結構大きなケースで絵本や図鑑を含めて持ってきてくれる。

今、教育長が話されたように、小さい頃から字に触れるとか、いろいろな本に触れることは、本当にありがたいと思う。あと借り物なので、物を大切にしなければいけないとか、子供には難しいけれども、わざわざ来てくださって、貸してもらっている。そういう物を大切にするということは成長段階では大切なことなので、小さい子供たちにもしっかりと教えたい。定期的に来てもらい本当にありがたいと思う。

[委員]

ちなみに、この図書館フェスティバルのときには、本の入れ替えをするので、古い本は販売する。結構めっけものの本もいっぱい出てくるので、ぜひ行ってほしい。ある種の古本市みたいなものもやっているのも、面白いと思う。

[委員]

一番に関して三つ質問したいことがあり、教育長が話されたように、やはり頼むということが子育てにとってとても大事かと思う。今の保護者はどちらかというとみんなに頼るよりも、直接、教育委員会に訴えていく保護者が多いと思うので、今、教育委員会に直接または間接で届いている保護者の相談の内容がどんなものが最近多いかわかれば教えてほしいというのが一つです。

二つ目に、PTAや子供会もやはり、保護者や地域の中でとても大事な役割を果たしていると思う。ただ、加入しない保護者がとても増えていると思うので、各学校のPTA未加入率や、あと子供会

に入っている子供さんたちが激減しているので、子供会の数や加入率がわかれば、教えてほしいというのが二つ目です。あと三つ目は、教育委員会が子供を中心に繋がることやコーディネーターの役を受け持つことは、とてもありがたいと思っているので、具体的にどのような感じでコーディネートをしていかれることをイメージしているのか質問したい。

[学校教育課長]

一つ目の保護者の相談内容に関して一番多いのは、いじめについての相談です。

ただなぜ、これを学校に言わないのかというところで、小学校よりも中学校の方が多い感覚ですが、いじめや教師の対応がどうかということに関して相談が多いですが、「学校にも直接お話されたらどうですか」と言うと言ってくる回答が、「いや、ちょっと内申とかが気になるので、学校にはもう言わないでいいです。」とか「学校には、匿名であったとお伝えください」というのがちょっと多いという私の印象です。

その辺りはそんなことは絶対ないので、遠慮なく相談してもらっていいのになと感じているところです。

[教育長]

P T Aの加入率は、世間で言われるほど入っていないというのは少ないと思う。単Pはあるけれども、市全体のP T A組織に入らないというところが、今年1校出てきた。何で入らないのかというと、まず単P、自分たちの学校の中の組織をちゃんとしたいということ言われている。

[委員]

それは、小さい学校ですか。組織が維持できないとかですか。

[教育長]

組織上、まとまっていないので、まずは学校の中の組織を強化したいという意向だったと聞いている。

[委員]

しばらく前にP T Aの組織の代行業者があるとテレビであった。子供たちがいるから先生との関わりもあるし、P T A会費で払って、会長や副会長を代行する業者があると、保護者のP T A離れというのも、本当に顕著かなと思う。一番は係をしたくないという話です。子供会もそうです。中学校ぐらいになったら、係をしなければいけないので。子供会の係も大変です。保険に入ったり、廃品回収を計画したり、もうそろそろ係が回ってくるとなったら抜けるとか、親の都合です。子供たちは行きたいんです。仲間と一緒に活動するか

ら、子供たちは行きたいんです。でもその辺が子供は楽しいけど親が楽しくないというか、それはあるかなと思う。

[委員]

共稼ぎの人が全体的に増えている。専業主婦でお母さんが家にいたときの時代の組織のあり方と夫婦とも働いている状況になってきたので、ある程度、組織のあり方を考えざるを得ないというか、前と同じようにやろうとすると、できない人がおそらく増えるということがある。

[委員]

子供を中心に学校、家庭、地域が繋がるというコーディネート役を教育委員会に持つことについて、どのような感じのコーディネート进行イメージしているのか。

[教育長]

それぞれが一生懸命されていて、最後は子供のためにやっているけれども、黙って見ていると、それぞれだけでされているので、誰かが一つに結びつけていかなければと思い、ことあるごとに私はPTAや地域の祭り、また、いろんな集まりのときに、私だけでなく、次長、課長たちも行くようにして、できるだけ私達が顔を見せながら、「お願いしますね」と。それでぱっと効果があるわけではないけれども、知り合いになるといろんな頼み事もできるし、また向こうからもいろいろと相談事や頼まれ事もあるので、そういう役目が私達の役目なのかなという感じがする。

議 事

《学校教育課長からの報告》

子どもが輝く未来フォーラム in 諫早の開催要項

《学校教育課長からの報告に対する質問》

質問・意見なし

《非公開議事》

報告第13号 臨時代理の報告について（諫早市少年補導員の委
嘱について）

生涯学習課長 説明

削除

了承

その他

教育総務課長

1 7月の定例教育委員会の日程について

17時45分閉会